

平成26年3月31日

平成25年度 地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 学生総合支援センター
氏 名 宮崎 冴子

活動テーマ	「世界遺産・熊野古道」の保全と次代への継承
実施期間	平成25年6月1日 ～ 平成26年3月29日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>①ウィズみえユネスコクラブと共に準備し、参加者を公募して2013年12月14日に「第5回熊野古道に行こう！」を実施した。ツヅラト峠の下山後には東長島公民館で語り部さんや参加者と「世界遺産への思い」「街の活性化」について討論した。</p> <p>②2014年1月11日に三重大学の留学生45名を含む54名で「熊野古道・松本峠」に登った。当日は共同実施者の木本高校生による英語ガイドが大好評であった。下山後、新鹿にて班毎に「ナメコ菌の植え付け」「木材の間伐」等を体験した。</p> <p>③2014年3月29日の総会後に第2回世界遺産講演会を実施し、記念講演1「世界遺産サンチャゴ・デ・コンポステーラと熊野古道」は川端守氏(三重県立熊野古道センター長)、記念講演2「世界遺産熊野参詣道伊勢路の価値～伊勢から熊野へ聖地巡礼歩き旅調査から見えてくるもの～」は伊藤文彦氏(三重県立斎宮歴史博物館文化財技師)から講演を聞いて、参加者は世界遺産の保全・継承について心を新たにしました。</p> <p>(2) 地域への貢献(地域の発展・活性化への寄与、広がり)</p> <p>①若者たちが遠くから熊野古道まで出かけて行き、率先して行う世界遺産内の清掃や保全活動、また「街の活性化」に関する討論等は、地元の方々にとって大きな励みになり、地域社会の活性化に繋がっている。</p> <p>②参加する県民や若者たちにとっても、地元の関係者から直接に話を聞くことで、よい刺激のシャワーを浴びている。主催者の若者たちは実施する度に「もっと、世界遺産を大切に次代に継承したい」と次の活動への意欲を高めている。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>①共同実施者の三重県地域連携部南部地域活性化局とは、2009年「世界遺産・熊野古道登録5周年記念事業」を三重大学ユネスコクラブが全面的に協力したことを契機に、厚い信頼関係を持続し、連携してきた。三重大学ユネスコクラブの卒業生がウィズみえユネスコクラブを設立したことから、5周年後も熊野古道に関わる事業の企画・運営等についてアドバイスや支援等を受けてきた。</p> <p>②「美し国おこし・三重」実行委員会は県内の地域活動グループのコーディネーター等を任務としている。ウィズみえユネスコクラブは、すでに「美し国おこし・三重」のパートナーズに登録して日頃から信頼関係を築いており、強力な連携先である。</p> <p>③三重県立木本高等学校は、宮崎との連携を契機にユネスコスクールに認定された。今年は「英語による熊野古道の道案内」に挑戦して留学生たちを喜ばせた。また、大いに大学生と高校生、参加者や地域の方々との交流ができたことは大変喜ばしい。</p>

④共同実施者のウィズみえユネスコクラブは、三重大学ユネスコクラブの卒業生が地域で活動を継続するために、県内の15～34歳の若者を中心に結成した団体である。継続して真摯に取り組む「世界遺産・熊野古道」に関する活動は全国的にも高い評価を受けている。産学官の強固な連携と信頼関係はとても良好である。

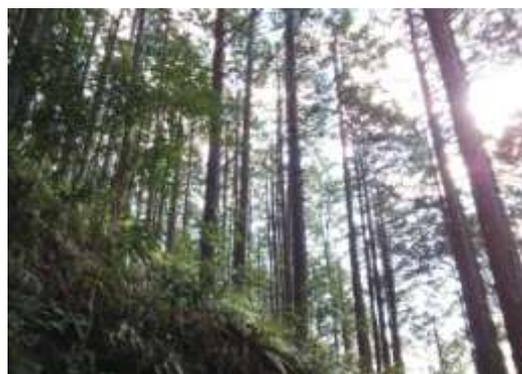
(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

①宮崎が25年間蓄積してきたユネスコやユネスコスクールに関する専門的な知見や調査等のシーズを活用して次代を担う若者のリーダーや指導者の養成ができた。

②国際社会及び我が国が目指す「生きる力を備えた人材の育成」「持続可能な開発のための教育(EDS)」を、三重大学地域貢献事業として成果を上げることができた。

(5) イベント等開催実績(名称、実施場所、参加人数等)

①2013.12.14 ウィズみえユネスコクラブ・三重大学ユネスコクラブ主催
「第5回熊野古道に行こう！」会場:ツヅラド峠・東長島公民館、参加者40名



②2014.1.11 ウィズみえユネスコクラブ・三重大学ユネスコクラブ主催
「第3回熊野古道クリーンツアー」会場:松本峠・新鹿、参加者54名



松本峠の頂上からの七里ヶ浜を望む



なめこ菌の植え付け作業中

③2014.3.29 第2回世界遺産講演会「世界遺産・熊野古道の保全と次代への継承」会場:三重大学共通教育棟101教室、参加者30名



講演中の川端氏(三重県立熊野古道センター長)



講演中の伊藤氏(三重県立斎宮歴史博物館)